

令和7年度ばら病害虫防除基準

発行：J A さ が え 西 村 山
寒 河 江 市 ば ら 部 会

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。
〔害虫防除〕

作業	対象害虫						コ R I A ド C	薬剤名	使用方法				注 意 事 項
	アブラムシ類	ミカンキロ アザミウマ	アザミウマ類	ハダニ類	オシロイコブ	オオタバコガ			倍率(薬量/水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期	使用回数	
定植時													根頭がんしゅ病に罹病している苗は植付けしない。
生育期	○						4A	アドマイヤー1粒剤		株当たり2g(但し、6kg/10aまで)を株元散布する。	生育期	5回以内	株元散布
	○		○				4A	ダントツ粒剤		株当たり2gを株元散布する。	発生初期	4回以内	株元散布
	○		○				4A	ダントツ水溶剤	2,000倍(5g)	100～300ℓ	発生初期	4回以内	
	○						1B	ジェイエース水溶剤	1,500倍(6.6g)	100～300ℓ	発生初期	5回以内	
			○						1,000倍(10g)				
	○						3A	アディオフロアブル	1,500倍(6.6mℓ)	100～300ℓ	－	6回以内	合成ピレスロイド剤(アディオフロアブル)は蜚毒が強いので注意する。
	○				○		9B	コルト顆粒水和剤	4,000倍(2.5g)	100～300ℓ	発生初期	4回以内	
	○						3A	スカウトフロアブル [㊟]	2,000倍(5mℓ)	100～300ℓ	－	5回以内	合成ピレスロイド剤(スカウトフロアブル [㊟])は蜚毒が強いので注意する。
	○						4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍(5g)	100～300ℓ	発生初期	5回以内	
	○	○			○		4A	ベストガード水溶剤	1,000倍(10g)	100～300ℓ	発生初期	4回以内	
	○		○				4A	モスピラン顆粒水溶剤 [㊟]	2,000倍(5g)	100～300ℓ	発生初期	5回以内	モスピラン顆粒水溶剤 [㊟] は蜚毒が強いので注意する。
			○				5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍(2g)	100～300ℓ	発生初期	2回以内	
				○			2A	ペンタック水和剤	1,500倍(6.6g)	－	－	－	1. ペンタック水和剤は開花期に散布すると、品種により花卉に葉害が発生するので使用をさける。 2. 同一ダニ剤の連用はさける。 3. アグリメック [㊟] はコロマイト水和剤と同一成分とみなし、連用をさける。
				○			25A	ダニサラバフロアブル	1,000倍(10mℓ)	100～350ℓ	発生初期	2回以内	
				○			6	コロマイト水和剤	2,000倍(5g)	100～200ℓ	発生初期	2回以内	
				○			10B	バロックフロアブル	2,000倍(5mℓ)	100～300ℓ	発生初期	1回	
			○	○			6	アグリメック [㊟]	500倍(20mℓ)	100～300ℓ	発生初期	5回以内	
				○			25B	ダニコングフロアブル	2,000倍(5mℓ)	100～300ℓ	発生初期	1回	
	○				○		9B	チェス顆粒水和剤	5,000倍(2g)	100～300ℓ	発生初期	4回以内	
			○			○	6	アフーム乳剤	2,000倍(5mℓ)	100～300ℓ	発生初期	5回以内	アフーム乳剤はばらの品種により葉害が出る場合があるので注意する。
									1,000倍(10mℓ)				
						○	28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍(5g)	100～300ℓ	発生初期	4回以内	
			○			○	5	ディアナSC	2,500倍(4mℓ)	100～300ℓ	発生初期	2回以内	

〔病害防除〕

作業	対象病害				R A C コード	薬剤名	使用方法				注 意 事 項
	根頭がんしゅ病	黒星病	べと病	うどんこ病 (灰色かび病)			倍率(薬量/水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期	使用回数	
定植時	○										根頭がんしゅ病に罹病している苗は植付けしない。
生育期		○		○	1	トップジンM水和剤	2,000倍(5g)	100～300ℓ	－	5回以内	
			○	○	M3	エムダイファー水和剤	500倍(20g)	100～300ℓ	発病初期	8回以内	べと病は特に9月以降に発生しやすいので以下の点に注意する。 1. 過剰灌水はさける。 2. 過湿をさける。 3. 通風をよくする。
		○		○	M1	サンヨール	500倍(20mℓ)	100～300ℓ	発生初期	8回以内	1. 同一薬剤の連用をさける。 2. サプロール乳剤は品種によって高温乾燥時に葉害を生ずることがあるので注意する。 3. 灰色かび病にはフルピカフロアブル、ポリオキシシAL水溶剤、サンヨールを散布する。 4. EBI剤は耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。 5. フルピカフロアブルはおうとうに葉害がでるので飛散しないように注意する。 6. フルピカフロアブルは、ばらの品種により葉害が出る場合があるので注意する。 7. サンヨールは高温時に、ばらの品種により葉害が出る場合があるので注意する。 8. パンチョTF顆粒水和剤とトリフミン水和剤は同一成分を含む。
				○	19	ポリオキシシAL水溶剤	2,500倍(4g)	100～300ℓ	発病初期	8回以内	
		○		○	1,M3	ラビライト水和剤	800倍(12.5g)	100～300ℓ	－	5回以内	
		○		○	9	フルピカフロアブル	3,000倍(3.3mℓ)	100～300ℓ	発病初期	5回以内	
		○		○	7	パレード20フロアブル	4,000倍(2.5mℓ)	100～300ℓ	発病初期	3回以内	
				○	3	アンビルフロアブル	2,000倍(5mℓ)	150～300ℓ	発病初期	7回以内	
		○		○	3	サプロール乳剤	1,000倍(10mℓ)	100～300ℓ	発病初期	5回以内	
				○	3	トリフミン水和剤	5,000倍(2g)	100～300ℓ	発病初期	5回以内	
				○	U6,3	パンチョTF顆粒水和剤	2,000倍(5g)	100～300ℓ	－	2回以内	
				○	U13,9	ショウチノスケフロアブル	2,000倍(5mℓ)	100～300ℓ	発病前～ 発病初期	2回以内	

◎同化専用枝の枯枝や落葉は除去する。(農薬散布を阻害する他、落ち葉は病害虫の温床となるため。)

◆系統別適用農薬一覧表 ★系統の異なる農薬を輪用で使用する。

R A C コード	分 類	殺 虫 剤		殺 ダ ニ 剤
		浸透移行性 有	浸透移行性 無	
1B	有 機 リ ン 系	ジェイエース		
2A	環状ジエン有機塩素系			ペンタック
3A	ピ レ ス ロ イ ド 系		アディオン、マブリック、スカウト	
4A	ネオニコチノイド系	アドマイヤー、スタークル、ダントツ、モスピラン、ベストガード		
5	ス ピ ノ シ ン 系		スピノエース	
6	マ ク ロ ラ イ ド 系		アフーム	コロマイト、アグリメック
9B	ピ メ ト ロ ジ ン	チェス		
10B	エ ト キ サ ゾ ール			バロック
15	ベンゾイル尿素系		カスケード	
25A	ケトニトリル誘導体			ダニサラバ
25B	カルボキサニリド系			ダニコング
28	ジ ア ミ ド 系		フェニックス	

R A C コード	分 類	殺 菌 剤	
		予防効果のみ	予防・治療効果
1	M B C		トップジンM、 ②ラビライト
3	D M I		アンビル、サプロール、 トリフミン、④パンチョ
7	S D H I		パレード
9	アニリノピリミジン	フルピカ、 ①ショウチノスケ	
19	ポリオキシシ		ポリオキシシ
U6	フェニルアセトアミド		④パンチョ
U13	チ ア ゾ リ ジ ン	①ショウチノスケ	
M3	ジチオカーバメート	エムダイファー、 ②ラビライト	
M7	ビスグアニジン		
M1	－	サンヨール	

※丸で囲まれた数字の付いた農薬は2成分含有している。